

第2 A (小) 分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 支援を要する子どもへの組織的な対応と教頭の役割について

討議の柱 自ら学びに向かう力の育成のため、どのようにチームでの支援体制を確立させるのか、そこでの教頭の役割はどうあればよいのか。

提言者 日田市立東溪小学校 三ツ木 隆

1 質 疑

- (1) Q 4年生のために支援員2人を要請したのか。また、宿題チェック週間とは何か。
A 現5年、2年と必要になったので申請をした。保護者のチェックは、年間3週間、児童アンケートで課題となった項目を行う。
- (2) Q 18名の職員はどんな構成か。
A 校長、教頭、教務、教護教諭、担任、支援員、図書館司書、市教育センター在籍等。
- (3) Q 習熟度別指導や支援員の配置に関して、保護者との連携をどうしているか。
A 4月の総会で校長が説明を行った。また、就学時健診や保育園等への訪問で情報を得た。保護者と協議するというよりは、学校としての方針である。
- (4) Q 担任任せにしないため、全教職員で共通理解をする時間の確保をどうしているか。
A 4人が集まればその時々の様子を話す。その積み重ねが全て。その後必要があれば、運営会議を行う。
- (5) Q 支援学校の巡回相談など、専門機関との連携をどうしているか。
A 担任だけではなく特別支援教育コーディネーターや管理職が専門機関とつなぐ。保護者が自ら教育相談に行けるように、垣根を下げていくことが大切だと感じている。

2 協 議

- (1) 情報共有や記録を残すことが一番大切。特別支援教育コーディネーター、生活指導担当、教育相談コーディネーターをどう活用し、役割分担をしていくかを考えることが教頭の役割である。教頭が全部してしまうと人材育成につながらない。
- (2) 支援の必要性が保護者には、なかなか伝わりにくい。幼稚園や保育園、専門機関等の外部とのつながりを作っていくこと。そして、学校側が、正確な情報収集と発信力をつけていくことが大切になってくる。支援チームを作り、組織としてつながりを深めていくことが大切である。
- (3) 給食の合間や廊下でのちょっとした機会を見つけて情報交換することが重要。その情報から、必要に応じて会議の場を設定することが教頭の役割になる。

3 指導助言

- (1) 教頭の役割は、人材育成である。担任を担任として、または、分掌主任を分掌主任としてその職員の良さを引き出しながら育てていく【OJT】が大切である。どんな教頭になろうとしているのか、自分のキャラで勝負し、コーチとして頑張ってもらいたい。
- (2) レポートのよい点は、3つある。
 - ①共通理解のためのちょこっと会議がとても良い。
 - ②教護教諭の『できたねカード』が良い。
 - ③良質な判断をするために幼稚園、保育園に足繁く通り情報を集めていることが良い。
- (3) 気になる点は1つ。担任任せにしないということも大事だが、担任がすべきことは担任が主体性を持ってすることも大事。小さな失敗の中から何かを得ることがある。